

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201120
法人名	社会福祉法人 今治市社会福祉協議会
事業所名	今治市社協 グループホームゆいの家
所在地	今治市大三島町野々江2435番地1
自己評価作成日	平成21年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との協力関係の維持を大切にし、利用者さんと職員の協同で楽しく暮らす。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人たちを支え、地域に支えられながら、町全体が大きな家族のように思えるホームである。開設から9年を経過しているが、職員の異動が極めて少なく、利用者及び家族、職員同士、地域とも自然に馴染んでいる。運営推進会議から発生した自主防災組織は、消防署、行政、消防団、自治会など地域の多くの方を巻き込んだ大きなものになろうとしている。管理者をはじめ職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、謙虚な気持ちで話に耳を傾けている。看取りについては、希望があれば可能な限り取り組みたいとの声が職員からあがっており、対応を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 今治市社協グループホームゆいの家

(ユニット名) グループホームゆいの家1

記入者(管理者)

氏名 渡邊 ミカ子

評価完了日 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者さんの状態の変化により見直しをしています、必要に応じて、職員全員で作成し、行動指針を指針として利用者さんが地域の中で安心して暮らせるように支援をしています。</p> <p>(外部評価) 理念はユニットごとに職員で話し合っ作り上げている。地域密着を踏まえながら、その時々状況に合わせて見直している。利用者を人生の先輩として尊敬し、安心して過ごしてもらうことを念頭に、日々の実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) ゆいの家の行事に招待、地域の行事などに参加する、など、常に交流が出来るよう環境の設定を行っている。特に夏祭りは地域の方の、出演や、披露などで地域の方にとっても、楽しい恒例の行事となってきた。今年の夏祭りは300人近くの参加者でにぎわった。</p> <p>(外部評価) 島しょ部という環境もあり、利用者も職員も地元出身者が多く、祭りなどの地域行事にはほとんど参加し、ホーム行事にも参加してもらっている。保健福祉に関する施設に隣接しており、デイサービスや保健センターに来た地域の方との交流は日常的にある。近所の方が野菜を持って来てくれるなど、自然体のおつきあいがある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 年間を通じて実習生の受け入れや、学校関係の研修の場や、体験実習の場としても地域に提供しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の取り組み内容や、ホームの課題などを報告して、話し合い、貴重な意見を参考にし、サービスの向上に生かしている。又地元消防団員との話し合いにより、今治北消防署大三島分署、大三島方面隊、野々江分団、野々江地区自治会及び近隣住民を交えた災害時緊急連携組織が整備され、12月頃に避難訓練、消防訓練を予定しています。	
			(外部評価) 運営推進会議は活発に行われており、利用者やホームのことまで意見は多岐にわたっている。災害対策については、地域を巻き込んでの組織化にまで発展しつつある。多方面からの参加があり、出席率や積極的な発言からも、ホームを良くしようという意欲が感じられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営上の実態を報告し、現状の課題等を相談したり、協力関係が得られるように取り組んでいる。定期的な「ゆいだより」を届けて理解を深めていただいている。また運営推進会議のメンバーとして参加いただいています。	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者の参加を得、隣接の保健センターとも日頃からコミュニケーションを図るなど、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠だけでなく拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者様の安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいます。運営推進会議で家族様から、安全のために施錠を希望され、事業所の方針を説明して、理解を得ることもあった。	
			(外部評価) 夜間の防犯目的以外では施錠をしていない。カーテンやのれんに鈴をつけたり、事務所のガラスを外して見守りしやすいように改修するなど、拘束しないで安全を確保する工夫に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の機会を設け、全員で学習し虐待防止に向け徹底を図っている。言葉使い、声の大きさにも注意を払い虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員は制度の理解を深めるための研修を受け職員全員で毎年学習の機会を設けている。活用がいつでも出来るように支援体制は整っている。又家族様を含め本人との契約の上で福祉サービスの利用援助（代行、代理、情報提供）や日常的な金銭管理などを継続的に支援しています	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時十分な説明をしているが、料金改定等内容に変更あるときは事前の説明と十分な理解、納得を図っている。又来棟の際家族様との話し合いの時間をもち疑問や不安の解消につとめています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様やご家族様とのコミュニケーションの機会を多く持ち、何でも話せる環境を作っている。運営推進会議での意見などは反映できるよう努めている。又ご家族様と利用者様にアンケートをとり反映できるようにして、サービスの向上につなげていくようにしています。 (外部評価) 家族が訪ねてきた際には職員から声をかけ、何でも話してもらえ関係を築くよう配慮している。クリスマス会等の行事への家族の参加も多く、併せて家族会を開催して意見をいただいている。定期的に家族へのアンケートも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング時には意見や提案事項、要望等は必ず全員で出し合い、反映できるようにしている。また随時気付きなどが言える職場であるように努めています。 (外部評価) 長く勤めている職員が多く、管理者との関係も良好で、お互いに信頼し合い、普段からオープンに話し合いをしている。利用者を見守りやすくするために壁を除けたり、投薬方法を変更してから利用者の表情が明るくなったなど、職員の意見が運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格や勤務年数等が反映できる給与体制であり、資格の取得などの支援をしている。また職員は休暇も取りやすく、働きやすい環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修をスキルに応じ計画を立てるようにして職員全員が、質の向上させていけるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互訪問交流で同業者の活動を通じて意識の向上、隣接した事業所での定期的な意見交換会で質の向上に努めている。研修会での同業者と相談できる場があり、活用しています。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様と本人様との自宅での面談をして、見学交流等で話し合い面識を深め、更に本人さんが納得をされてから入居の手続きを行っている。入居当初は、家族さんの協力を得られながら本人さんの安心感の確保、また家族ぐるみでの良い関係性を気付くように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時事業所の出来ること、出来ないこと、方針等を説明して、不安や相談等に耳を傾け、随時相談に応じるよう説明をして、安心感を持っていただくように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様や家族様の思い、そのときの状況把握に努め、事業所として出来る限りの対応に努めている。また必要に応じて、他のサービスにつなげるように努めています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「共同生活」を目標に本人さんのできる力を、普段の生活の中から見出し、職員や利用者さん同士で一緒に出来るようにし、お互い教えあいながら、自然な生活場面が作られるように工夫しています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様の生活の様子をお便りや連絡等で家族様には安心感が得られるようにし、また、状態変化時には協力が得られるように情報の共有に努めています。職員は家族様とのより良い関係性が保てるように努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事にはでかけ、事業所の行事などへの参加で、知人と触れ合う場を提供できるようにしています。又、地域の方や知人の訪問交流ががいつでも出来るように働きかけています。 (外部評価) 地元出身の利用者がほとんどであり、馴染みのある土地でそれまでの環境とあまり変わらない生活が継続できている。デイサービスや保健センターが隣接しており、利用者は自由に行き来して馴染みの方と会話を楽しむなど、普段の生活の中で交流ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じて出来ることを利用者同士が支えあえるように支援をしています。お互いに協力し合える関係性を職員はその時々が円滑に出来るように努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの生活史を思い会話を大切にしています。本人の思いや、意向を汲みながら支援しています。日々の身体状況から出る訴えや、困難な場合は家族様と相談しながら支援させていただきます。 (外部評価) 習字の好きな人はデイサービスの教室に通ったり、縫物の得意な人には壁の飾り物などで手腕を発揮する機会を作ったり、料理に興味のある人には味付けを任せるなど、それぞれの思いや意向を把握し、得意なことをしてもらいながら必要とされていることを感じてもらうよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様の協力を得ながら、一人ひとりの生活歴を把握し、本人さんが出来るだけ安心した生活が出来るように支援します。又プライバシーに関することは理解を得て十分な配慮、気をつけています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日ごろから本人さんの能力の把握をし、その日の状態、状況を踏まえ、出来ること本人の得意分野を発揮していただくように、支援します。又他者とともに楽しむ時間を過ごせるように働きかけることもあります。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人さんの想いや意向が反映できるよう、家族様の意見や職員同士でのケアカンファ等で検討し、現状に即した介護計画を担当の職員と計画作成担当者で作成しています。</p> <p>(外部評価) 担当者が気付いたこと等をメモし、月1回の会議で皆でモニタリングし、また3か月に1回は計画の見直しをしている。変化がある場合はその都度見直している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の実践の中で気づき、変化等の記録をし、職員間で情報を共有している。介護計画の見直しにも活かしています。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族さんや本人さんのニーズに応じ外出や外泊等自由にできるよう支援をしています。地域との交流やボランティア、実習生の受け入れ等柔軟な対応に取り組んでいます。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 運営推進会議のメンバーでもある民生委員さんの理解を得られていて、ボランティアさんの協力、消防関係との連携、行政との連携や学校関係の交流など資源をふんだんに活用しながら一人ひとりの安全で豊かな暮らしが出来るように支援しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人さんや家族さんの希望に応じたかかりつけ医の受診、又嘱託医の協力も得られ、適切な医療を受けられるように支援しています。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関からの往診が月2回あるが、基本的には本人及び家族の希望に応じたかかりつけ医を受診している。町内への通院はホームが対応しているが、町外へは家族に協力してもらっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 同法人内での看護師の協力がいつでも得られ、又保健師とも相談できる関係にあり、受診の必要性など相談し、日常の健康管理や医療活用の支援を行っています。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者さんの状態の確認を、家族や医師から行い、回復状況、退院見込み、予定の確認など出来るだけ早期退院できるように勤めています。嘱託医との協力関係は出来ています。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 契約時本人さんや家族さんの意向はうかがっている。状態に応じ、家族さんの意向を踏まえながらかかりつけ医の判断を元にホームで支援できる範囲を説明しています。</p> <p>(外部評価) 重度化した利用者を見た経験があり、管理者及び職員は最期まで看取りたいという強い思いがある。島という環境もあり協力医療機関や緊急の医療体制が万全とは言えないが、終末期にあっても利用者が精神的な満足を得られるよう、希望に合わせたケアに配慮しながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員での定期的な救急法の訓練は受けていて、急変時の応急手当に向けた実践は出来る様に行っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間を想定とした避難訓練は行っています。消防署、地域の方面体、消防隊、総代さんとの連携組織が出来て、避難訓練を予定しています。(自己評価No.4に詳細記入) (外部評価) 夜勤は1名体制のため、非常災害時には不安もあったが、消防署、消防団など各方面のメンバーで構成する災害対策の住民組織ができるなど、地域との協力体制が築かれている。合同の消防訓練も予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の居室に入るときや、トイレ内での会話、声の大きさなど十分に本人さんのプライドを傷つけることなく、気をつけるよう配慮している。又、プライバシーの保護は、毎回のミーティング時に話し合い徹底を図っています。 (外部評価) 職員は、利用者に優しく声をかけ、食事介助などでも根気よく丁寧に話を聞くなど、利用者への愛情のこもった姿勢がある。機関紙への写真掲載には、家族の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた言葉かけや、働きかけをして、本人さんの想いを汲み取り自分で決めたり選んだりするよう場面づくりをしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 居室以外に個々にソファや畳代、廊下長いすや外のベンチなど自分の好きなどころがあり、読書、や新聞、テレビなど自由に楽しめるように支援しています。又菓子や嗜好品の買い物の支援をしたり、一人ひとりの時間の過ごし方は希望に沿って支援をしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) このみの服が選べるように見やすく取り出しやすく衣服の整理をし、一緒に服を選んだりしています。又希望あれば、行きつけの美容院、理髪店に行く支援をしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自宅の畑で取れた野菜や果物等頂物が多く新鮮な食材を使用し、季節感あふれる調理の提供ができています。利用者さんの能力に応じて出来る準備や片付け等の支援をしています。 (外部評価) 季節の野菜や果物を近所の方が頻りに持ってきてくれるため、新鮮な食材には恵まれている。メニューは利用者と相談して決めており、食べやすいように刻み・とろみ・ミキサー食とその人に合った形態になるよう工夫している。味付け、配膳、皿洗いなど、できることをできる人にしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分の摂取量を記録してカロリー計算を一人ひとり出し管理している。又バランスよい献立になるように工夫をしている。摂取量の少ない方には、おやつで補い調理の工夫等で支援しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きの支援をして、介助の必要な利用者さんには必要な介助をして、コップや歯ブラシは定期的に消毒をしている。入れ歯の方は洗浄液を使用される方もおられ、一人ひとりの清潔保持の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェック表により一人ひとりの排泄パターンの把握をして早めの支援によりトイレでの排泄につなげている。自立できている利用者さんも今の状態の維持が出来る様に（たまに失敗あってもプライドが保たれるようにさりげなく）支援をしています。	
			(外部評価) 昼夜を問わずオムツを使用している利用者はいない。個々の状態に合わせて紙・布パンツやパッド等を利用している。利用者の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の確認を記録して便秘状態の把握をしている。予防のため普段から野菜や果物を多く取り入れた食材にしている。又散歩や体操を毎日取り入れて便秘予防の運動をしている。便秘症の方は主治医に相談し、整腸剤等の処方をしてもらい、個々に応じ、早めの対応をしています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 気の合う利用者さん同士、一緒に入る。ゆっくり一人で入りたい等、一人ひとりの希望にあわせて入浴を楽しんでいただけるように支援しています。体調にあわせ時間を問わず、対応することもあります。職員とマンツーマンでゆっくり信頼関係が保てる時間を大切にしています。	
			(外部評価) 希望に応じて、シャワー浴で毎日でも入れるよう対応している。午後1時から4時くらいの間に、1人でゆっくり入ったり、仲の良い利用者同士で一緒に入るなど、自由に入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムがあり昼間は居室で休んだり、にぎやかなところを希望する利用者さんもいて、フロアのソファで休んだり希望に応じている。居室の喚起や、温度調節はまめの行い、気持ちよく休んでもらえるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋つづりをファイルにして確認しやすく薬の変更あれば連絡ノートでの申し送り、職員間での共通理解が出来る様にしている。症状に変化あれば細かく記録して医療機関へつなげるように支援しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や能力を活かした役割があり縫い物の得意な方は小学校茶道部に袱紗を縫い届け、お礼にお茶をたてに来棟され喜ばれた。又折鶴の得意な方は、学校関係に千羽鶴を毎年届けています。お誕生会は家族様にも連絡をして皆でお祝いをしたりと、楽しみを持っていただけるように支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の散歩、保健センター、福祉センターへは体調にあわせて出かけるようにしています。地域の行事や四季折々の花見や近くのお寺参りでは住職の説法を聞いたり楽しみを見つけに出かける支援をしています。 (外部評価) 祭りや学校行事等、地域行事は多く、積極的に参加している。近所に買い物に行ったり、夕涼みや魚釣りをしたり、時には市外までドライブに行くこともある。毎日隣接の保健センターやデイサービスに行き、馴染みの人たちとの交流を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で所持される方も居られますが、管理困難であり、小額である。家族さんから日常生活費用として事務所で1万円程度預かり希望あれば、その中から買い物の支援をしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要に応じ家族と電話が出来る様につなげている。贈り物等あれば必ず本人様がお礼が言えるようにし、お便りや、年賀状は本人に書いてもらうよう支援しています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の好む場所があり、あらゆる場所にくつろげる共有空間の椅子やソファが用意してあり、そのとき居心地の良いところでくつろいでいる。会話が弾んだり、一人で外の風景を眺めたり、時々来客との時間を過ごせたり、職員と喋ったり自由にくつろげるように支援しています。</p> <p>(外部評価) 年3回、花壇用の花の苗を園芸クラブの方が提供してくれ、利用者と職員で植えており、草取りは熱心な利用者がしてくれている。壁面の飾りは皆で作っているが、幼稚にならないよう大人向けの配色にするなど工夫している。トイレや風呂は清潔を第一に考えている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 窓際で外の景色、中庭が見える場所、みかん山が見える場所、車の往来が見える場所、等あらゆる場所に椅子やベンチ、ソファが用意してあり、数人で横になれる台があり、思い思いの居場所作りを工夫しています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使い慣れた家具や布団等を持って来てもらい安心感のある居室になるように家族さんの協力を得ている。季節に応じ温度調節をして、居心地欲すごせるように工夫をしています</p> <p>(外部評価) 馴染みの物を持ってきてもらえるよう、利用開始時に本人及び家族に説明し、協力を得ている。畳の部屋にこたつを置いている利用者もいるなど、その人らしく暮らしていることがうかがえる。誕生会や家族の写真を飾るなど、殺風景にならないよう心がけている。カレンダーを貼り、家族が訪れる日には印を入れている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 歩行の安全、安定を図るための手すりやトイレの立位補助用すりや目印となるよう張り紙や台所の高さの工夫等利用者さんの自立が出来るよう工夫されている。又居室内はベッドの向きや家具の位置なども利用者さんの使い勝手良く配置の工夫がしてあります。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	社会福祉法人
事業所名	今治市社会福祉協議会 大三島グループホームゆいの家2
所在地	愛媛県今治市大三島町野々江2435の1
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田舎の島特有ののんびりとしたゆとりの生活が支援できている。もとをたどれば皆親戚と言っても過言ではないような島の特殊な環境の中で昔からの顔なじみと生活することができている。近隣との関係もよく毎日のように新鮮野菜の差し入れや散歩時の声かけなどに、この地域にゆいの家が確実に存在する手ごたえを感じている。離職率が低く職員の出入りも無い為、何年も一緒に過ごしており、第2の家族としての信頼関係がある上に恵まれた自然とのんびりと落ち着いた社会資源のもと、地域との繋がりも盛んで笑顔の絶えない家である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人たちを支え、地域に支えられながら、町全体が大きな家族のように思えるホームである。開設から9年を経過しているが、職員の異動が極めて少なく、利用者及び家族、職員同士、地域とも自然に馴染んでいる。運営推進会議から発生した自主防災組織は、消防署、行政、消防団、自治会など地域の多くの方を巻き込んだ大きなものになろうとしている。管理者をはじめ職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、謙虚な気持ちで話に耳を傾けている。看取りについては、希望があれば可能な限り取り組みたいとの声が職員からあがっており、対応を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

評価完了日

年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域との交流を基盤とした理念に基づき、職員間でもっと具体的に考えた指針を掲げて仕事をしている。いつも目につくところに貼ってあり、意識した実践ができるように日々の業務の中でも話し合う体制をとっている。</p> <p>(外部評価) 理念はユニットごとに職員で話し合っ作り上げている。地域密着を踏まえながら、その時々状況に合わせて見直している。利用者を人生の先輩として尊敬し、安心して過ごしてもらうことを念頭に、日々の実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 母体はじめ事業自体が、積極的に協力体制の整備を行ったり、GH主催の祭りや、餅つき等行事を行い地域に関わっている。地域の行事にも参加したり、近所の子供や小・中学生が交流できる機会も充分にある。又、365日24時間体制を生かし、子供の「守君の家」を引き受ける等、地域への密着を進めている。</p> <p>(外部評価) 島しょ部という環境もあり、利用者も職員も地元出身者が多く、祭りなどの地域行事にはほとんど参加し、ホーム行事にも参加してもらっている。保健福祉に関する施設に隣接しており、デイサービスや保健センターにきた地域の方との交流は日常的にある。近所の方が野菜を持って来てくれるなど、自然体のおつきあいがある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ちょっとした相談も電話や訪問等で丁寧に対応できるようにしている。社協自体の相談の中で横との連携もとりながら、GHだけに止まらず様々なサービスとの連携を地域の人に理解してもらい役立てるように接している。又、実習生や地域のボランティアを積極的に受け入れて認知症への理解を促している。 19年度は地域の皆様に「認知症の正しい理解」と題して認知症研修会を実施し、基礎知識の習得やグループホームの周知に努め、成果が見受けられたので、20年度は高校の福祉教育で「認知症の正しい理解」と題して認知症学習会を5回実施し認知症について学び人権の尊さを再認識しました。引き続き本年度も実施し、地域全体で、GHを見守っていただいています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 毎回定期的に行い、市役所、民生委員、社協の理事や支部長、利用者家族様、利用者様本人、3棟の代表が集まり話し合いがなされている。具体的な内容であったり、地域へ向けた発信であったり、活発な意見交換のもと、GHへの協力、認知症への理解が深まってきている。また3棟が各棟へ情報を持ち帰り、ミーティングを通して職員皆に伝えサービスの向上に繋がっている</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は活発に行われており、利用者やホームのことまで意見は多岐にわたっている。災害対策については、地域を巻き込んだ組織化にまで発展しつつある。多方面からの参加があり、出席率や積極的な発言からも、ホームを良くしようという意欲が感じられる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議以外にも地元の市役所担当者との連絡は日ごろから密であり、利用者の受診状態やサービスのあり方等指導を受けている。また、GHにも近くに来た際には寄って様子を見て声かけをしてくれる等、市役所サイドからの細やかな配慮もある。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市担当者の参加を得、隣接の保健センターとも日頃からコミュニケーションを図るなど、協力関係が築かれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束については研修に行った職員がミーティング時に学んだことを発表し皆で考える機会を設ける等、勉強している。又、リスク面で心配な時は職員皆が管理者に相談し、利用者様の身の安全と拘束にならない優しい介護を目指している。</p> <p>(外部評価) 夜間の防犯目的以外では施錠をしていない。カーテンやのれんに鈴をつけたり、事務所のガラスを外して見守りしやすいように改修するなど、拘束しないで安全を確保する工夫に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者はじめ職員一同、虐待についての倫理性は持っており、機会があれば積極的に勉強もしている。又、その内容を持ち帰ってミーティング等で共有している。身体的虐待だけでなく、精神的な虐待の無い様に、声かけや仕草等、ノンバーバルな面からも虐待の無いように一層の研鑽をしていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度についても、職員皆高い関心があり、機会があれば積極的に参加している。又、その内容を持ち帰ってミーティング等で共有している。実践として、そういった制度の活用やシステムを利用者様の家族様に説明したり、地域の人々へのアドバイスを行うなど生かしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が責任を持って行い、家族からは「話し易いし、なんでも聞き易い」と言う声をもらっている。利用者様の家族様との信頼関係が構築できていると自負している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には必ず参加してもらい活発な意見を貰っている。来所時には、なるべく家族様の意見が出易い雰囲気作りに努め、信頼関係の基、様々な意見を貰っている。利用者様本人にも会議に参加してもらい、日頃の感想や要望が無いかを話してもらおう機会を設けている。 (外部評価) 家族が訪ねてきた際には職員から声をかけ、何でも話してもらえる関係を築くよう配慮している。クリスマス会等の行事への家族の参加も多く、併せて家族会を開催して意見をいただいている。定期的に家族へのアンケートも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 日頃の業務時間以外や休憩時間を使い、職員の意見が聞けるようにコミュニケーションをとっている。「疑問や不服を抱えての仕事」は仕事の質に影響するので、なるべく職員の意見、提案を聞き取り入れたり、無理であれば「何故無理か、どのような理由か」を明確に伝えるようにして信頼関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 長く勤めている職員が多く、管理者との関係も良好で、お互いに信頼し合い、普段からオープンに話し合いをしている。利用者を見守りやすくするために壁を除けたり、投薬方法を変更してから利用者の表情が明るくなったなど、職員の意見が運営に活かされている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 日頃からコミュニケーションをとる時間を意識している。役割分担して責任を持って仕事をしてもらっている。職員の気付きや継続して頑張っていることに対してのアドバイスや賞賛をし、共に仕事を支えあっていると実感して仕事をしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員向けの研修にはなるべく参加してもらうようにしている。内部研修や自己研修の機会を持てるよう、企画があれば回覧で全体に行渡るようにしている。又、研修の成果を職員皆で生かしていけるように、ミーティング等で発表して計画に反映するようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 近くに同業者が居ない為切磋琢磨の機会が少ないが、年に一回の相互研修の機会や、研修を通してネットワーク作りに励み、職員が「井の中の・・・」にならないようにしたい。職員には情報が欲しいという向上心があるので無くさない様に研修に参加してもらう。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) インテーク段階で、本人がなるべく納得して入居してもらえるよう説明をする。が、理解の難しいときには居心地の悪いところではないと感じてもらえるような、雰囲気作りをする。初期の段階で時間をかけつつも集中して信頼関係構築を急ぎ、細かな情報も漏らさず職員同士で共有していく。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様との信頼関係構築を急ぐと共に、家族様との信頼関係が築けるように十分な説明と家族様の思いを十分に聴き誠意を見せた対応をしている。家族様からの申し出にはもちろん、GH側からも「何か変わったことはありませんか」等、話しやすい雰囲気作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者や家族の意向を十分に聴き、言葉にならなくとも何を求めているかを察知してGH内だけでなく、ボランティアやデイサービス等、人の資源や環境を活用している。特に「人」の力は大きく他事業の職員には協力してもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) GH内での利用者の出入りもあまり無く、又、職員も移動が少ない為「第二の生活」を皆が営んでいる。職員は利用者様の顔を見て「ほっ」としたり、「ありがとう」の言葉にやりがいと、自分の働く意味を感じさせてもらっている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様が幸せに過ごす為には、GHと家族と病院の連携がきちんと取れることなので、特に家族様との密な関係が続くようにしている。日頃からの些細な事でうれしいことや、心配なことなど連絡するように心がけ、サブの家族として精神的にも支えていけるように節度を持った距離感で信頼関係を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自分の存在を必要とされることが利用者様の大切な部分なので、今までの人生を尊重できるように今までの馴染みを無くさないように会話を継続している。又、地域の人々、知人等の訪問は拒まず優先させている。馴染みの場所へも行事や交流を兼ねて参加するように心掛けている。	
			(外部評価) 地元出身の利用者がほとんどであり、馴染みのある土地でそれまでの環境とあまり変わらない生活が継続できている。デイサービスや保健センターが隣接しており、利用者は自由に行き来して馴染みの方と会話を楽しむなど、普段の生活の中で交流ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様一人一人の性格を把握し、お互いが認め合えるような雰囲気になるように職員がさりげなく介在している。 ストレスになる時には、トラブルになる前に距離をおけるような状態作りに職員がアンテナを張っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了後も地域での交流があったり、近くに寄ったのでと訪問してくれたりと交流がある。又、他のサービスの事や近所の人の相談など持ちかけてくれ、新たなサービス利用へと繋がるケースもある。地域とのネットワーク作りとなっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その日の顔色や態度等、毎日の介護記録と照らし合わせながら、気持ちを大切に対応している。理由の伝達の困難な利用者は特に申し送りやミーティング、カンファレンス等で職員皆で話し合い、家族様にも相談するなどしながら本人の気持ちを重視した心地よい介護を心掛けている。 (外部評価) 習字の好きな人はデイサービスの教室に通ったり、縫物の得意な人には壁の飾り物などで手腕を発揮する機会を作ったり、料理に興味のある人には味付けを任せるなど、それぞれの思いや意向を把握し、得意なことをしてもらおう中で必要とされていることを感じてもらうよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者様本人との会話の中や、家族様との会話の中でバックグラウンドを知り、職員間で共有できるようにしている。その中でも触れて良い事と悪い事を把握し会話に配慮もしている。これまでのサービス利用の経過はサービスを提供する側の横の連携を密にし、情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間365日のGHなので、職員の申し送りの際に細かな表情や仕草、行動の変化等、気付く事はなんでも次に繋げる様にしている。介護記録に残し職員が必ず目を通すことで、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 利用者様一人一人に担当を付け、責任を持って変化の見落としが無いように努めている。しかし、個々だけに偏らず、他の利用者様の变化も担当者に伝えたり、担当者が計画に提案していくなど、ケアプランを見直すこともカンファレンス時に活発な意見が出ている。とりあえずやってみて、様子を見て、考察するという姿勢で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 担当者が気付いたこと等をメモし、月1回の会議で皆でモニタリングし、また3か月に1回は計画の見直しをしている。変化がある場合はその都度見直している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別の介護記録は生かされている。ミーティング、カンファレンスで情報を共有しながら方法を変えて対応したりその評価を話し合い考察するように心掛けている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 職員の人数は限られているが、その中でもバランスをとりながら個々に応じたサービスができるよう模索し工夫をしている最中である。その時々利用者様の本質の要望に応じていけるように個人的な時間もとる努力をしている。又、大変なことなので職員間のチームワークの大切さを皆で考えている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 民生委員、ボランティア等、の支援はもちろんの事、近隣の社会資源は大きく、買い物や散歩時には挨拶をはじめ声かけをしてもらい楽しく談話し、また夜中に間違えてGHから出て行き解らなくなった時なども、連絡を入れてくれる等、人的資源も大きい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) それぞれ利用者様本人、又は家族様が選んだかかりつ け医の受診ができています。又、事業所側もかかりつけ 医と密に連携が取れるように連絡をし、信頼関係が構 築できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関からの往診が月2回あるが、基本的には 本人及び家族の希望に応じたかかりつけ医を受診して いる。町内への通院はホームが対応しているが、町外 へは家族に協力してもらっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 併設したデイサービスの看護師と看護師として職員を 配置しその両者の意見を職員が取り入れ相談できるこ とで、適切な判断と過剰な心配が軽減されている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) できるだけかかりつけ医との連携がとれるように、日 常の往診時から相談、連絡をとっている。以外の病院 へ入院した場合も利用者様、家族様の意見を中心に方 向性を話し合っている。又、早期退院を希望しGHに 帰る場合はリスクを考慮しながらも病院との連携をと りながら、迎え入れている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時には管理者が利用者様、家族様の意向をしっかり 聴く対応をし、GHにできる事できない事の説明も できている。管理者のターミナルに対する考えを職員 皆が熟知し、文章化もしている。この方針に従いつ つ、良い終末を迎えられるように心構えをしている。</p> <p>(外部評価) 重度化した利用者を看た経験があり、管理者及び職員 は最期まで看取りたいという強い思いがある。島とい う環境もあり協力医療機関や緊急の医療体制が万全と は言えないが、終末期にあっても利用者が精神的な満 足を得られるよう、希望に合わせたケアに配慮しなが ら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員が救急救命の講習、AED操作法の講習は受けている。GH内での急な病変や発作等には、連絡網を作り一人で迷い困惑しないよう対処できるようにしている。ミーティング等の全員が揃う時に、模擬対処を行うなどして実践力も身につけていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 今年度はすでに職員間で一度行った。他GHとの連絡体制も確認し、避難訓練も順調であった。又、近隣の地域の消防団や住民との災害に対する避難法等の協力体制ができつつある。 (外部評価) 夜勤は1名体制のため、非常災害時には不安もあったが、消防署、消防団など各方面のメンバーで構成する災害対策の住民組織ができるなど、地域との協力体制が築かれている。合同の消防訓練も予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 気をつけた対応はしているが、地域性もあり方言を使い少々乱暴に感じる場面もある。信頼関係とその場面やケースを考えた上での言葉かけとなるよう、カンファレンス、日々の申し送りや反省と評価を職員間で話し合っている。職員のかかげる指針の一つに「年齢は尊敬に値する」と尊重する姿勢は常に持っている。 (外部評価) 職員は、利用者に優しく声をかけ、食事介助などでも根気よく丁寧に話を聞くなど、利用者への愛情のこもった姿勢がある。機関紙への写真掲載には、家族の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) いつものパターンで流れがちにはいるが、日常生活で選ぶこと等はなるべく聞いて、利用者様に選んでいただくような姿勢をとっている。もっと意図的に利用者様の本音を引き出せるような技術を職員個々で研鑽していきたいと、日々の業務の中で職員の質の向上について話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースは大切にしている。特に訴えは無くても、少しの変化でも見逃さないように勤め、その日の体調や気分に合わせて対応や声かけに勤めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者様の意向を大切にしている。又、家族様の思いもあるので家族の意見、経済的な面等考慮しながらも、本人のおしゃれ心を大切にしている。又、毎日の服装のコーディネートや季節に合わせた衣替えを担当職員が中心に家族と連絡を取りながら気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できるだけ、調理から参加してもらっている。個々に合わせた「できる事」を日々の業務やミーティングで職員が意見交換をして確認をし、何らかの形で参加してもらっている。参加した達成感を味わってもらうために、できた事への感謝の言葉を忘れないように心掛けている。献立ももっと参加してもらえるように工夫したい。	
			(外部評価) 季節の野菜や果物を近所の方が頻繁に持ってきてくれるため、新鮮な食材には恵まれている。メニューは利用者とは相談して決めており、食べやすいように刻み・とろみ・ミキサー食とその人に合った形態になるよう工夫している。味付け、配膳、皿洗いなど、できることをできる人にしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に記録を常にとり、業務中も職員がチェックを確認しながら、十分に食事や水分補給ができるようにしている。水分補給はいつでも取り易く、飲み易い場所にお茶をセッティングしておく等の工夫をしている。数値的にも栄養士にカロリー計算をしてもらう等、一目見て分かるよう、個々の記録も工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、きちんと見守りと声かけ、一部介助で皆が口腔ケアをしている。個々に合わせた口腔ケアの工夫もしている。又、歯ブラシとコップの管理も消毒乾燥を心がけている。最近は食事の前の口腔体操もまめに取り入れ、口への関心も持ってもらうよう楽しく口腔ケアをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様が便座に座り排泄できるように、時間を見ながらの誘導や、状況にあわせた誘導を行っている。その際にも自尊心を傷つけないように声かけには注意し、さりげない誘導や、理解の困難な利用者様にはモデリングを行ったり、時間をかけたり等工夫を職員間で話し合いながら実践している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>昼夜を問わずオムツを使用している利用者はいない。個々の状態に合わせて紙・布パンツやパッド等を利用している。利用者の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>下剤や浣腸を利用している利用者様は現在居ないので、現状が維持できるように食物繊維の多い野菜中心の食事や日々の運動を意識している。幸い近所からの差し入れとして野菜が多く、利用者様も野菜中心の健康的な食事を取れている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リズムのある規則正しい生活のパターンを支援する為に入浴日と時間を大まかに決めてはいるが、個々の状態や希望にあわせるように柔軟な対応を心掛けている。個々にあわせた好きな入浴スタイルも尊重したり、入浴困難な利用者様に合わせた清潔保持を工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>希望に応じて、シャワー浴で毎日でも入れるよう対応している。午後1時から4時くらいの間に、1人でゆっくり入ったり、仲の良い利用者同士と一緒に入るなど、自由に入浴を楽しんでいる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>夜にゆっくり安眠できる事をベースにしながら、個々に合わせた昼寝の時間や体調に合わせた休息の時間を提供している。休み易いように気を遣わなくてすむような声かけと、誘導をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 間違いないよう個別の袋を作りきちんと服用できる支援をしている。担当を決め、薬についての管理と、無駄が無く本人の状況の変化に合わせた薬がもらえるように検討し、かかりつけ医に相談できる体制作りをしている。まだまだ知識不足も多いので、職員皆でカンファレンス時に少しずつではあるが勉強をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の食事や家事全般に参加してもらったり、裁縫や園芸等「昔から好きでしていた事」をしてもらい職員が教えてもらったり、それを評価できる場に展示したりと本人の笑顔が出てやりがいにつながる声かけ等の支援をしている。又、時々の楽しみとしてビールを楽しんだり、ジュースを買いに出かけたりと、柔軟な活動をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出は機会多くできるようにしている。特に近所への散歩等は毎日の日課である。又、時には個々の楽しみの為の外出を行事として皆で楽しめるような工夫をし、職員がボランティアで参加して楽しんでいる。家族様や地域の協力も得ながら、個々の外出も増えつつある。 (外部評価) 祭りや学校行事等、地域行事は多く、積極的に参加している。近所に買い物に行ったり、夕涼みや魚釣りをしたり、時には市外までドライブに行くこともある。毎日隣接の保健センターやデイサービスに行き、馴染みの人たちとの交流を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々にあわせて、金銭管理をしている。財布を持つての商店への散歩や、買い物を楽しめるように機会を設けている。その際にあまり無駄の出ないように声かけしたり食品などは衛生的な支援をする等、本人の自尊心を傷つけず、満足いく支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族様と連絡を取るときはなるべく利用者様が話ができるように配慮している。又、贈り物が届いた時等はその日の内に品物を見ながらの連絡ができるように支援している。今後は定期的に電話をかけて話のできる支援をしていきたい。又、ゆいの家だよりを送る際に一言利用者様書き込めるような工夫をしたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 採光も充分で風通しも良い。設備的には広さや開放感、温度管理等申し分ないので、清潔感のある空間作りの為掃除をきちんと行ったり、居心地の良い空間と雰囲気作りに職員が気を配る支援をしている。季節感が感じられるよう、生花を飾ったり創作で貼り絵や季節の物を作って飾っている。</p> <p>(外部評価) 年3回、花壇用の花の苗を園芸クラブの方が提供してくれ、利用者と職員で植えており、草取りは熱心な利用者がしてくれている。壁面の飾りは皆で作っているが、幼稚にならないよう大人向けの配色にするなど工夫している。トイレや風呂は清潔を第一に考えている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 孤立しないように様子を見ながら、居室での1人の時間を大切にしている。又、仲の良いグループでじんまりと談話の楽しめる場所として廊下の突き当たり両サイドに長椅子を置いて活用している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者様希望の品はもちろん、家族様の配慮の家具や飾り等、自由にしている。あまりこだわりの無い利用者様も多く、殺風景な居室には誕生日の時の写真や家族との写真、本人が作った品物を飾ったり等、本人と話し合いながら職員が積極的に温かみが出る工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 馴染みの物を持ってきてもらえるよう、利用開始時に本人及び家族に説明し、協力を得ている。畳の部屋にこたつを置いている利用者もいるなど、その人らしく暮らしていることがうかがえる。誕生会や家族の写真飾るなど、殺風景にならないよう心がけている。カレンダーを貼り、家族が訪れる日には印を入れている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 視線に合わせた場所の表示や自分の居室の名前等分かり易いようにしている。トイレは特に自分で気がつくように便所と注意を引く大きさと色で表示している。</p>	